

2012.03.29

図書館は、研究教育活動を通じてその使命を実現すべき大学の中核的な構成要素である。図書館の資源やサービス活動は、大学の将来計画、特に大学の個性や機能を開発、発展させる計画と対応している必要がある。大学の有力な一翼として、図書館は学生の学習支援、教職員の創造的な研究活動を支援することが期待されている。

図書館には学内の知的諸活動を促進し、統合する場として、多様な研究支援サービスを展開し、研究成果の蓄積、流通、利用の拠点を築き、積極的な情報発信を行う責務がある。研究支援サービスの中核は利用者が必要とする文献・資料・情報を収集整理し、提供することから、近年の電子媒体による学術資料の著しい増加にともない、電子媒体の選定とともに、本学からの研究成果の発信など、サービスのあり方にもその影響は免れない状況にある。学習支援サービスの中核は利用者の学習効率の向上を促す図書館環境の提供にある。

本学は先端科学技術を専門とする最初の独立大学院大学として設置された。本学の使命は、先端科学技術の分野において高度の基礎研究を推進するとともに、当該分野の高度の研究者、技術者を養成し、教育を通じて社会的な要請に応えることである。図書館には、この使命を遂行すべく、文献・資料・情報を効果的に提供して支援機能を展開する責務がある。学際性・革新的な基礎研究の急速な展開、科学と技術の一体化など先端科学技術の学問的特徴を踏まえたサービス支援活動を実施していく必要がある。

更に、図書館には地域や社会への貢献が求められている。図書館に蓄積した学術情報や学内の研究成果を発信することにより、他の図書館との連携を強化し、地域住民や地域社会に知的交流の環境を提供する。関わるすべての人の知的好奇心を刺激し、育み、生涯学習や調査研究活動を支援し、地域に根ざした図書館を構築して文化振興に貢献することを目指す。また、地域の図書館との連絡を密にし、教職員、学生に対するサービスを豊かなものとするよう協力を深める。

以下、これらの観点から、図書館の将来像、本学の目的に適合した文献・資料の収集方針とその提供、サービスの方針を示すものである。

1. 図書館の将来像

図書館は、次の研究・学習支援図書館、情報発信型図書館の二つの機能を総合的に展開する文献・資料・情報の拠点となるべく、将来像を追求すべきである。

研究・学習支援図書館

図書館の使命は、大学の設置目的の実現のために、大学が行う研究と教育活動を支援することにある。本学の目的は、「先端科学技術分野に係る高度の基礎研究を推進するとともに、大学等の研究者の養成のみならず、企業等において先端科学技術分野の研究開発等を担う高度の研究者、技術者等の組織的な養成及び再教育を行うこと」である。図書館における研究活動の支援とは、必要な文献・資料・情報を収集整理し、提供することとともに、近年の電子媒体とネットワークをもちいた資料の提供を進めることにある。図書館における教育活動の支援とは利用者の学習効率の向上を促す図書館環境の提供にあるが、近年、個から集団学習へと学習手法も変化しており、その変化に対応することも重要である。

本学は大学院大学であり、図書館は研究活動を支援するとともに、学習手法の効率化も鑑みた研究・学習支援図書館として展開していくべきである。研究活動のダイナミックな展開と高度な教育機能のダイナミック変化の双方に対応可能な、研究と教育の創造的な一体化こそ、本学の理想とすべきあり方である。この観点に立ち、図書館は研究・学習支援図書館としてのアイデンティティを模索し、確立してゆく必要がある。

情報発信型図書館

図書館では、積極的に情報を発信し、本学あるいは社会に貢献することを目指す。図書館に蓄積した蔵書等を提供することはもとより、「JAIST 学術研究成果リポジトリ」の拡充及びその活用に努めるとともに、所蔵する文献を電子化し、保存、公開することにより、情報発信の機能を強化した電子図書館を整備する。

印刷媒体の資料は、図書館を構成する重要な要素であり、従来型図書館の機能は今後とも維持していく必要がある。従来型図書館と電子図書館の機能分担、相互補完、相乗効果を総合的に追及し、新しい図書館のあり方を模索せねばならない。印刷媒体の資料と電子媒体の資料とを同じ様に、円滑に提供することができるシステム、両者に対して簡便にアクセスできるシステムを備えることが必要である。

図書館は、学内外の関連機関と連携し、人類の知の資産へのアクセスを保証すると

ともに、図書館のもつ知的好奇心の種を発信、さらには知の交流を提案して「知的好奇心を育む図書館」を築き上げる。

2. 収集方針あるいは蔵書構築指針

収集すべき文献・資料を次の条件に基づき選定する。

- a. 知識科学研究分野・情報科学研究分野・マテリアルサイエンス研究分野の文献・資料のうち高度の基礎研究に関わるもの
- b. 知識科学研究分野・情報科学研究分野・マテリアルサイエンス研究分野の文献・資料のうち最新の成果を反映したもの

ただし、次の掲げる資料はその優先順位に従い収集するものとする。

- ① 学術雑誌（バックナンバーを除く）
当該研究分野の先端的な研究動向を主導し、影響力の高い論文が掲載される代表的な雑誌
- ② 論文検索型データベース（二次資料・参考図書など）
最新の研究成果や研究動向を把握し、広く、精度よく文献の収集を可能にするもの
- ③ 最新刊の研究図書及び会議録
原則として、過去2年以内に発行された図書、または1年以内に開催された会議にかかる会議録
- ④ シラバス指定の参考書
- ⑤ リクエスト図書

3. サービス方針

- a. 図書館は、受け入れた文献・資料を迅速に利用者に提供する。
- b. 図書館は、利用者の求める資料が図書館に所蔵されていない場合、図書館間相互協力を通じた他機関への複写依頼あるいは購入その他の手段により、その複写もしくは当該資料を利用者に提供する。
- c. 図書館は、利用者の創造的な研究活動を支援するために、24時間無休で開館し、その必要とする文献・資料を閲覧、複写、貸出に供し、依頼に応じて参考

調査サービスを行う。

- d. 図書館は、図書館内における利用者の研究活動を支援するために、施設、設備の整備、維持、管理を通じて快適な研究環境を提供することに不断に務める。
- e. 図書館は、図書館が所蔵する文献・資料を必要とする学外の研究者、地域の住民等に対し、本学の教職員、学生に準じたサービスを提供する。
- f. 図書館は、可能な限り、学内の研究成果や所蔵する文献等を電子化して保存するとともに、広く社会に提供する。

4. 電子化への対応指針

今日では、学術雑誌のみならず図書や一般商業誌等においても、印刷媒体に依存した従来型の出版形態から電子媒体を活用した出版への展開が追求されている。今後は、電子出版物を活用した電子図書館への変貌、発展を見据えつつ、「図書館は多様なメディアが活用できる施設とする」と本学の設置構想にもある通り、また研究図書館、情報発信型図書館を実現するために、電子図書館化への取組みを推し進める。

以上を踏まえて、電子化への取組みは以下の指針による。

- a. 学内の研究成果は著作権の許諾が得られる限り、積極的に電子化し、学内外に発信してゆく。
- b. 電子ジャーナル等電子資料については、大学図書館コンソーシアム連合（通称 JUSTICE）との協力のもとに、必要とされる学術情報を安定的、継続的に確保し、提供する。
- c. 電子資料については、その内容等を精査するとともに、配架スペースの節約、多数の教職員、学生、特に遠隔地の学生（東京サテライト等）の便宜に寄与すると考えられる場合は積極的に収集する。
- d. 電子化の動きに不断に注目し、関連情報の収集、調査に努める。